

【解答】  
[設問 1] aーエ  
[設問 2] bーオ, cーイ, dーエ  
[設問 3] eーウ, fーエ

【解説】  
図 1 ワークシート“学習進捗管理” (単元記述部分) の例 (以下, “学習進捗管理” (単元記述部分) という), 図 2 ワークシート“学習進捗管理” (項目記述部分) の例 (以下, “学習進捗管理” (項目記述部分) という) の 2 種類のワークシートが登場する。同じ表ではあるが, 列 A から列 G までが単元記述部分, 列 I から列 O までが, 単元を細分化した項目記述部分になっている。問題文中に設定された内容に従って解答していく。問題文の分置は近年の本試験においては比較的少なく, 処理内容も比較的シンプルであるといえる。マクロ問題は設問 3 で出題されており, ワークシート内の複数のセル間の値を参照・代入する処理を自動化させる内容であるが, マクロ記述そのものは処理の本体部分がわずか 4 行に過ぎず, その処理も非常に簡素なものである。個々の処理の具体的な内容について, 適切に問題の設定と対比させて把握するという点に留意したい。

【設問 1】

関数 IF を入れ子で用いた場合の処理内容が問われている。関数 IF の基本的な利用方法を把握していれば, 確実に正解が得られるサードス設問である。セル位置を取り違えてしまうようなケアレスミスに注意したい。

・空欄 a：それぞれの単元の学習が標準日数内に完了したかどうかを表示するための計算式が問われている。本空欄を含む計算式はセル G2 に入力され, G3～G13 と縦方向に複写されることになるが, 解答群には相対参照のものしかないため, この部分はそれほど意識しなくてもよい。本空欄の直前には関数 IF の第 1 引数の論理式として,  $F2 = \text{null}$  が記述されており, 本空欄にはまず関数 IF の論理式が真となる場合の値あるいは式を示す関数 IF の第 2 引数部分が記述されなくてはならない。[ワークシート：学習進捗管理 (単元記述部分)] (8)には, 列 F に学習完了日が設定されていない場合, つまり  $F2 = \text{null}$  が成立する場合には, 空値である  $\text{null}$  が表示される旨記載されている。一方,  $F2 = \text{null}$  が偽の場合, 言い換えると列 F に学習完了日が設定されている場合には, “○”又は“△”のいずれかが表示されなくてはならない。“○”又は“△”の判定材料は, 同じく(8)の記述から, 学習に要した日数が標準日数以下かどうかによると分かる。これを具体的に判定するには, まずは学習に要した日数を算出しなくてはならない。つまり, 学習完了日から学習開始日を差し引き, 1 を加算する。よって,  $F2 - E2 + 1$  となる。この結果が D2 に入力されている標準日数以下であるかどうかの判定を行うことから, 本空欄内の関数 IF の論理式としては,  $F2 - E2 + 1 \leq D2$  となる。この結果が真の場合＝標準日数以下である場合は“○”, 偽の場合＝標準日数以下でない場合は“△”にしたい。よって, 本空欄は次の記述となる。

```

null,IF(F2－E2+1≤D2;○;△)
なお、本空欄を含む式全体としては次のとおりとなる。
IF(F2= null, null,IF(F2－E2+1≤D2;○;△))
したがって, (エ) が正解である。
```

【設問 2】

項目の学習開始の可・不可が表示される列 K の処理を行うためにセル K3 に入力される式が問われている。[ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4)で説明されているが, 条件の①と②とともに満たしている場合に“可”, この条件が満たされていない場合に“不可”と表示されるように設定したい。このための具体的な式の中に空欄 b, c, d が設けられている。関数論理演及び論理和を入れ子で用いた論理演算処理中の引数として, 関数切捨て, 関数表引き, 関数垂直照合, 関数剰余など, 主要関数が目白押しの少々珍しい出題である。処理記述の分量も多く, また処理内容が問題文として文章化されていることから一見すると難解に見えるが, 個々の関数の処理単位で解説・解析を進めてみると, あくまで標準的な水準での出題にとどまっていることが分かる。入れ子状態の複雑さに惑わされることなく, 素直に読解していくことで, 表計算ソフトの関数利用の一般的なスキルがあれば, 8 箇所の空欄とも正解を得ることは十分に可能である。総合的な実力アップに適した良問であるといえる。

・空欄 b：“学習進捗管理” (項目記述部分) の列 K において学習開始可能であるかを否かを判定する式について問われている。式のうち, 本空欄が含まれる部分で使われている関数論理和の役割として, [ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4)の①に, 「単元の ID が 100 であるか, 又は, より小さい ID の単元の学習が全て完了している」とあることから, この処理に該当すると推測できる。この場合, 本空欄を含む関数表引きによって得られる値と  $\text{null}$  との比較した結果が「より小さい ID の単元の学習が全て完了している」を示すことができれば, この部分の関数論理和の式が成り立つことになる。本空欄を含む計算式はセル K3 に入力され, その後セル K4～K53 と縦方向に複写されることになるが, 解答群を確認すると, いずれもセルの参照方法として絶対参照・相対参照の差異はないため深く意識する必要はない。一見, 複雑な入れ子の状態となっているが, 問題文中では利用している関数の引数単位で適宜改行されているため, 見やすく整理されている。まずは, [表計算の説明]と本設問中の式とを対比させて, 式のそれぞれの箇所がどの処理を担っているかを明らかにしておく。

[ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4)では, ①と②の両条件をともに満たしている場合, 学習開始可能であるとして, K2～K53 に“可”が表示される。2 種類の条件が同時に満たされているかどうかを判定する関数は関数論理積であり, 本設問中の式の冒頭に用いられている関数論理積がそれに相当することが分かる。そして, この式には二つの関数論理和が用いられているが, 一つ目の関数論理和では二つの論理式が, また二つ目の関数論理和では三つの論理式が, それぞれ処理対象として引数に設定されていることから, 一つ目の関数論理和には [ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4)の①が, 二つ目の関数論理和には同(4)の②が, それぞれ対応していることが分かる。それは, 同(4)の①で二つの条件が, また同(4)の②(b)において

二つの条件が示されており, 同(4)の②(a)と合わせて三つの条件が設定されていることから明らかである。

以上を踏まえ, 各行の内容を確認しつつ, 本空欄の解答を考えていく。本空欄は, 関数表引きによる処理内における第 2 引数として関数照合一致を用いた処理を担う箇所となっている。直前である式の 3 行目の処理内容を確認すると, 項目名の ID を関数切捨てによって下 2 桁を取り除いて得られた値が 100 と等しいかどうかを判断する内容である。これはその内容から, [ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4)の①で示されている最初の条件「単元の ID が 100 であるか」に相当している。そこで, 本空欄の行においては, (4)の①で示されている二つ目の条件に相当する処理として, 式が入力されている行に対応する単元「より小さい ID の単元」の学習完了日が  $\text{null}$  でないかどうかを判定している。つまり,  $\text{null}$  でない＝学習完了日が空値でない＝学習が完了している, と判断している。関数表引きの第 1 引数には学習完了日である F 列が, また第 3 引数である列の位置は I が設定されており, 本空欄では第 2 引数である行の位置を算出する役割が担われていることが分かる。本空欄が正しく設定されることによって, セル範囲で指定された特定の学習完了日が入力されているかどうかを判定する処理が実行できることになる。この一連の処理の流れから考えると, この式が入力されるセル K3 に対応する項目名の ID は I3 であり, I3 の下 2 桁を切り捨てることで得られた値をセル範囲 A2～A13 から照合し, 一致した箇所の一行上位の列 F における学習完了日のセルに値が入力されているかどうかを判定することになる。ここで, 「一致した箇所の一行上位」を算出する処理に留意して, これらのセル設定に基づいて本空欄が含まれている行の式を組み立てると次のようになる。

表引き(\$F\$2～\$F\$13, 照合一致(切捨て(I3,－2),\$A\$2～\$A\$13,0)－1,1)

≠null),

なお, 本空欄の末尾において－1 がセットされている部分については, 関数照合一致によって得られた値を, [ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4)の①の後半で示されている「より小さい ID の単元」を算出するための処理である。すなわち, 式が入力されているセル K3 に対して「一致した箇所の一行上位」の行数を算出するためである。検証のため, トレースしてみる。仮にこの式が K10 に入力されている場合, 関数照合一致によって 2 が返される。この値を行の位置として関数表引きが実行され, セル F3 の値 (この場合は単元の ID が 200 である「2.フルゴリズム」の学習完了日)である「2014-06-20」が得られる。そこで  $\text{null}$  でないかどうかの判定が行われるが, この場合は  $\text{null}$  ではないため, 本空欄を含む行の条件は満たされていることが確定する。よって, 本空欄は次の記述となる。

照合一致(切捨て(I3,－2),\$A\$2～\$A\$13,0)－1

したがって, (オ) が正解である。

・空欄 c：ここでは, 二つ目の関数論理和の引数として並べられた条件を構成する式の一部を求める出題である。関数垂直照合によって参照された値との比較対象となる値を得るための処理が問われている。本空欄が含まれる行では, [ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4)の②(a)である「項目が属する単元の項目学習順序が“任意”である」かどうかを判定している。具体的な処理の流れは, 関数垂直照合の第 1 引数として用いられている関数切捨てによって項目の ID である I3 の値の下桁を切捨てて 100 の単位とし, それをセル範囲 \$A\$2～\$C\$13 のうち列 A の単元の ID から検索している。対象の単元の ID が見つかった場合, 列 A から数えて右方向に 3 列目に位置する列 C にある項目学習順序の値を返すことで, 本空欄の内容と照合している。本問は, その値が「任意」であるかどうかを照合すればよいので, 「任意」とするのが適切である。したがって, (イ) が正解である。

・空欄 d：空欄 c に引き続き, 二つ目の関数論理和の第 3 引数として設定されている三つ目の条件の内容を求める出題である。本空欄の直前の第 2 引数として設定されている内容は, 項目の ID であるセル I3 の値を 100 で割った場合の余りを算出し, それが  $I = 0$  かどうかを判断していることから, [ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4)の②(b)の前半の内容に対応していることが分かる。そのため, 本空欄で行なわれる処理としては, 最後に残された条件である同(4)の②(b)の後半の「その単元の中でより小さい ID の項目の学習が全て完了している」かどうかを判断する内容に対応する。現在, 本問の式は K3 に入力されているため, この位置から直前の項目が入力されている行は 2 行目であり, 学習が全て完了しているかどうかは M 列の学習完了日のセルへの値の入力の有無によって判定すればよいことから,  $M2 \neq \text{null}$  となる。したがって, (エ) が正解である。

【設問 3】

ワークシートの複数のセル間において値の参照を自動化するための処理に関する出題といえる。本マクロ問題は, その処理内容及び分量, また過去の本試験出題例からも, かなり易しい水準であるといえるだろう。表計算ソフトのマクロ機能を活用しているとはいえ, 関数の組合せ次第ではマクロ機能を利用するまでもなく, 通常の表計算ソフトの機能だけで実現することもできる処理内容である。変数の格納内容とセル位置の指定方法を把握することで, 確実に得点を獲得しておきたい水準の出題である。

・空欄 e：マクロ自体は二つの条件分岐が入れ子で使われているが, 二つの変数の初期設定が 2 行, マクロ本体部分も処理記述行が実質的に 4 行だけという, 非常にシンプルな内容である。設問文中の処理内容とマクロの記述をそれぞれ対比させてみる。

・ItemRow ← 照合一致(O2, I2～I53, 0)

3 行目の記述は, 学習を開始する項目の ID が入力されたセル O2 の値を, 項目の ID が入力されているセル範囲 I2～I53 から検索し, 一致したセル位置をセル範囲の左端又は上端からの位置として値を返す処理である。問題の例では, 値「801」はセル範囲 I2～I53 において上端から 8 行目の位置にあることから 8 が返され, ItemRow に代入される。つまり, ItemRow には検索対象となる項目の ID を示す I 列におけるセル範囲の上端からの列数を示す値が格納される。

・UnitRow ← 照合一致(切捨て(O2,－2), A2～A13, 0)

4 行目の記述は, 学習を開始する項目の ID が入力されたセル O2 の値の下 2 桁を切捨て, 単元の ID が入力されているセル範囲 A2～A13 から検索し, 一致したセル位置をセル範囲の左端又は上端からの位置として値を返す処理である。

問 13	学習進捗管理 (表計算)
【解答】	
【設問 1】	aーエ
【設問 2】	bーオ, cーイ, dーエ
【設問 3】	eーウ, fーエ

【解説】  
図 1 ワークシート“学習進捗管理” (単元記述部分) の例 (以下, “学習進捗管理” (単元記述部分) という)、図 2 ワークシート“学習進捗管理” (項目記述部分) の例 (以下, “学習進捗管理” (項目記述部分) という) の 2 種類のワークシートが登場する。同じ表ではあるが、列 A から列 G までが単元記述部分、列 I から列 O までが、単元を細分化した項目記述部分になっている。問題文中に設定された内容に従って解答していく。問題文の分置は近年の本試験においては比較的少なく、処理内容も比較的シンプルであるといえる。マクロ問題は設問 3 で出題されており、ワークシート内の複数のセル間の値を参照・代入する処理を自動化させる内容であるが、マクロ記述そのものは処理の本体部分がわずか 4 行に過ぎず、その処理も非常に簡素なものである。個々の処理の具体的な内容について、適切に問題の設定と対比させて把握するという点に留意したい。

【設問 1】  
関数 IF を入れ子で用いた場合の処理内容が問われている。関数 IF の基本的な利用方法を把握していれば、確実に正解が得られるサードス設問である。セル位置を取り違えてしまうようなケアレスミスに注意したい。

・空欄 a：それぞれの単元の学習が標準日数内に完了したかどうかを表示するための計算式が問われている。本空欄を含む計算式はセル G2 に入力され、G3～G13 と縦方向に複写されることになるが、解答群には相対参照のものしかないため、この部分はそれほど意識しなくてもよい。本空欄の直前には関数 IF の第 1 引数の論理式として、 $F2 = \text{null}$  が記述されており、本空欄にはまず関数 IF の論理式が真となる場合の値あるいは式を示す関数 IF の第 2 引数部分が記述されなくてはならない。[ワークシート：学習進捗管理 (単元記述部分)] (8) には、列 F に学習完了日が設定されていない場合、つまり  $F2 = \text{null}$  が成立する場合には、空値である  $\text{null}$  が表示される旨記載されている。一方、 $F2 = \text{null}$  が偽の場合、言い換えると列 F に学習完了日が設定されている場合には、“○”又は“△”のいずれかが表示されなくてはならない。“○”又は“△”の判定材料は、同じく (8) の記述から、学習に要した日数が標準日数以下かどうかによると分かる。これを具体的に判定するには、まずは学習に要した日数を算出したくなくてはならない。つまり、学習完了日から学習開始日を差し引き、1 を加算する。よって、 $F2 - E2 + 1$  となる。この結果が D2 に入力されている標準日数以下であるかどうかの判定を行うことから、本空欄内の関数 IF の論理式としては、 $F2 - E2 + 1 \leq D2$  となる。この結果が真の場合＝標準日数以下である場合は“○”、偽の場合＝標準日数以下でない場合は“△”にしたい。よって、本空欄は次の記述となる。

$$\text{null}, \text{IF}(F2 - E2 + 1 \leq D2, \text{○}, \text{△})$$

なお、本空欄を含む式全体としては次のとおりとなる。

$$\text{IF}(F2 = \text{null}, \text{null}, \text{IF}(F2 - E2 + 1 \leq D2, \text{○}, \text{△}))$$

したがって、(エ) が正解である。

【設問 2】  
項目の学習開始の可・不可が表示される列 K の処理を行うためにセル K3 に入力される式が問われている。[ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4) で説明されているが、条件の①と②とともに満たしている場合に“可”、この条件が満たされていない場合に“不可”と表示されるように設定したい。このための具体的な式の中に空欄 b、c、d が設けられている。関数論理演算及び論理和を入れ子で用いた論理演算処理中の引数として、関数切捨て、関数表引き、関数垂直照合、関数剰余など、主要関数が目白押しの少々珍しい出題である。処理記述の分量も多く、また処理内容が問題文として文章化されていることから一見すると難解に見えるが、個々の関数の処理単位で解説・解析を進めてみると、あくまで標準的な水準での出題にとどまっていることが分かる。入れ子状態の複雑さに惑わされることなく、素直に読解していくことで、表計算ソフトの関数利用の一般的なスキルがあれば、8 箇所の空欄とも正解を得ることは十分に可能である。総合的な実力アップに適した良問であるといえる。

・空欄 b：“学習進捗管理” (項目記述部分) の列 K において学習開始可能であるかを否かを判定する式について問われている。式のうち、本空欄が含まれる部分で使

用されている関数論理和の役割として、[ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4) の①に、「単元の ID が 100 であるか、又は、より小さい ID の単元の学習が全て完了している」とあることから、この処理に該当すると推測できる。この場合、本空欄を含む関数表引きによって得られる値と  $\text{null}$  との比較した結果が「より小さい ID の単元の学習が全て完了している」を示すことができれば、この部分の関数論理和の式が成り立つことになる。本空欄を含む計算式はセル K3 に入力され、その後セル K4～K53 と縦方向に複写されることになるが、解答群を確認すると、いずれもセルの参照方法として絶対参照・相対参照の差異はないため深く意識する必要はない。一見、複雑な入れ子の状態となっているが、問題文中では利用している関数の引数単位で適宜改行されているため、見やすく整理されている。まずは、[表計算の説明] と本設問中の式とを対比させて、式のそれぞれの箇所がどの処理を担っているかを明らかにしておく。

[ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4) では、①と②の両条件をともに満たしている場合、学習開始可能であるとして、K2～K53 に“可”が表示される。2 種類の条件が同時に満たされているかどうかを判定する関数は関数論理積であり、本設問中の式の冒頭に用いられている関数論理積がそれに相当することが分かる。そして、この式には二つの関数論理和が用いられているが、一つ目の関数論理和では二つの論理式が、また二つ目の関数論理和では三つの論理式が、それぞれ処理対象として引数に設定されていることから、一つ目の関数論理和には [ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4) の①が、二つ目の関数論理和には同(4)の②が、それぞれ対応していることが分かる。それは、同(4)の①で二つの条件が、また同(4)の②(b)において

二つの条件が示されており、同(4)の②(a)と合わせて三つの条件が設定されていることから明らかである。

以上を踏まえ、各行の内容を確認しつつ、本空欄の解答を考えていく。本空欄は、関数表引きによる処理内における第 2 引数として関数照合一致を用いた処理を担う箇所となっている。直前である式の 3 行目の処理内容を確認すると、項目名の ID を関数切捨てによって下 2 桁を取り除いて得られた値が 100 と等しいかどうかを判断する内容である。これはその内容から、[ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4) の①で示されている最初の条件「単元の ID が 100 であるか」に相当している。そこで、本空欄の行においては、(4)の①で示されている二つ目の条件に相当する処理として、式が入力されている行に対応する単元「より小さい ID の単元」の学習完了日が  $\text{null}$  でないかどうかを判定している。つまり、 $\text{null}$  でない＝学習完了日が空値でない＝学習が完了している、と判断している。関数表引きの第 1 引数には学習完了日である F 列が、また第 3 引数である列の位置は 1 が設定されており、本空欄では第 2 引数である行の位置を算出する役割が担われていることが分かる。本空欄が正しく設定されることによって、セル範囲で指定された特定の学習完了日が入力されているかどうかを判定する処理が実行できることになる。この一連の処理の流れから考えると、この式が入力されるセル K3 に対応する項目名の ID は I3 であり、I3 の下 2 桁を切り捨てることで得られた値をセル範囲 A2～A13 から照合し、一致した箇所の一行上位の列 F における学習完了日のセルに値が入力されているかどうかを判定することになる。ここで、「一致した箇所の一行上位」を算出する処理に留意して、これらのセル設定に基づいて本空欄が含まれている行の式を組み立てると次のようになる。

表引き(\$F\$2～\$F\$13, 照合一致切捨て(I3, -2), \$A\$2～\$A\$13, 0) - 1, 1)

≠ null),

なお、本空欄の末尾において -1 がセットされている部分については、関数照合一致によって得られた値を、[ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4) の①の後半で示されている「より小さい ID の単元」を算出するための処理である。すなわち、式が入力されているセル K3 に対して「一致した箇所の一行上位」の行数を算出するためである。検証のため、トレースしてみる。仮にこの式が K10 に入力されている場合、関数照合一致によって 2 が返される。この値を行の位置として関数表引きが実行され、セル F3 の値 (この場合は単元の ID が 200 である「2.フルゴリズム」の学習完了日) である「2014-06-20」が得られる。そこで  $\text{null}$  でないかどうかの判定が行われるが、この場合は  $\text{null}$  ではないため、本空欄を含む行の条件は満たされていることが確定する。よって、本空欄は次の記述となる。

照合一致切捨て(I3, -2), \$A\$2～\$A\$13, 0) - 1

したがって、(オ) が正解である。

・空欄 c：ここでは、二つ目の関数論理和の引数として並べられた条件を構成する式の一部を求める出題である。関数垂直照合によって参照された値との比較対象となる値を得るための処理が問われている。本空欄が含まれる行では、[ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4) の②(a)である「項目が属する単元の項目学習順序が“任意”である」かどうかを判定している。具体的な処理の流れは、関数垂直照合の第 1 引数として用いられている関数切捨てによって項目の ID である I3 の値の下桁を切捨てて 100 の単位とし、それをセル範囲 \$A\$2～\$C\$13 のうち列 A の単元の ID から検索している。対象の単元の ID が見つかった場合、列 A から数えて右方向に 3 列目に位置する列 C にある項目学習順序の値を返すことで、本空欄の内容と照合している。本問は、その値が「任意」であるかどうかを照合すればよいので、「任意」とするのが適切である。したがって、(イ) が正解である。

・空欄 d：空欄 c に引き続き、二つ目の関数論理和の第 3 引数として設定されている三つ目の条件の内容を求める出題である。本空欄の直前の第 2 引数として設定されている内容は、項目の ID であるセル I3 の値を 100 で割った場合の余りを算出し、それが  $1 (= 0 + 1)$  かどうかを判断していることから、[ワークシート：“学習進捗管理” (項目記述部分)] (4) の②(b)の前半の内容に対応していることが分かる。そのため、本空欄で行なわれる処理としては、最後に残された条件である同(4)の②(b)の後半の「その単元の中でより小さい ID の項目の学習が全て完了している」かどうかを判断する内容に対応する。現在、本問の式は K3 に入力されているため、この位置から直前の項目が入力されている行は 2 行目であり、学習が全て完了しているかどうかは M 列の学習完了日のセルへの値の入力の有無によって判定すればよいことから、 $M2 \neq \text{null}$  となる。したがって、(エ) が正解である。

【設問 3】  
ワークシートの複数のセル間において値の参照を自動化するための処理に関する出題といえる。本マクロ問題は、その処理内容及び分量、また過去の本試験出題例からも、かなり易しい水準であるといえるだろう。表計算ソフトのマクロ機能を活用しているとはいえ、関数の組合せ次第ではマクロ機能を利用するまでもなく、通常の表計算ソフトの機能だけで実現することもできる処理内容である。変数の格納内容とセル位置の指定方法を把握することで、確実に得点を獲得しておきたい水準の出題である。

・空欄 e：マクロ自体は二つの条件分岐が入れ子で使われているが、二つの変数の初期設定が 2 行、マクロ本体部分も処理記述行が実質的に 4 行だけという、非常にシンプルな内容である。設問文中の処理内容とマクロの記述をそれぞれ対比させてみる。

・ItemRow ← 照合一致(O2, I2～I53, 0)

3 行目の記述は、学習を開始する項目の ID が入力されたセル O2 の値を、項目の ID が入力されているセル範囲 I2～I53 から検索し、一致したセル位置をセル範囲の左端又は上端からの位置として値を返す処理である。問題の例では、値「801」はセル範囲 I2～I53 において上端から 8 行目の位置にあることから 8 が返され、ItemRow に代入される。つまり、ItemRow には検索対象となる項目の ID を示す 1 列におけるセル範囲の上端からの列数を示す値が格納される。

・UnitRow ← 照合一致(切捨て(O2, -2), A2～A13, 0)

4 行目の記述は、学習を開始する項目の ID が入力されたセル O2 の値の下 2 桁を切捨て、単元の ID が入力されているセル範囲 A2～A13 から検索し、一致したセル位置をセル範囲の左端又は上端からの位置として値を返す処理である。